

# KOGA IDOL

今月の古河っ子

いいこが育つ古河



**諷訪秋之亮 くん**  
(令和3年10月生まれ・旭町)  
歌とダンスが大好き♡これからもたくさん遊ぼうね！  
(父：雄亮、母：ゆかり)



**酒井陽蒼 くん**  
(令和2年6月生まれ・上辺見)  
これからも元気いっぱい遊んでね！  
(母：郁果)



**関口然 くん**  
(令和4年1月生まれ・水海)  
毎日、幸せと笑顔がありがとう♡これからも大好きだよ！  
(父：隼平、母：由紀)



**忍田愛真 ちゃん(右)**  
(令和3年4月生まれ・松並)  
元気いっぱいおてんば娘♡わが家のアイドル♡  
(父：貴司、母：智晶)

お子さんの写真を募集中！ <対象> 0～3歳の市内在住のお子さん <応募方法> メール・電話で受付中。メールの場合は件名を「今月の古河っ子応募」とし、本文に「お子さんの氏名(ふりがな)・生年月日・父母の氏名・住所・電話番号」を明記し、city.pr@city.ibaraki-koga.lg.jp(☎シティプロモーション課☎92-3111)へ申し込みください！



わたしの夢

## 食べた人を笑顔にする和菓子職人

阿久津夢さん 三和東中学校3年生

和菓子には季節を感じることでできる魅力があります。初めて和菓子を見た時の感動は忘れられません。色も形も本当にきれいでした。実際に和菓子を作りたくなり、体験に参加しました。三角べら等を使って細部を表現するのは難しかったですが、私はオリジナルの和菓子を作りたいという気持ちが強くなり和菓子職人を目指そうと思いました。

あんこが苦手な和菓子を食べられない友達でも食べられるような和菓子を私が作って、好きになってもらいたいです。



## キラリ 古河ビト

国境を越えて広がる交流の輪  
キャッサバの生産者  
大和一正さん(東本町)

熱帯など暖かい地域で栽培される南米原産のイモの一種、キャッサバ。日本ではなじみの薄い作物ですが、ブームにもなったタピオカの原料としても知られ、間もなく収穫時期を迎えます。  
生産者の大和さんに栽培を始めたきっかけや、栽培にかける思いなどについて話を伺いました。

大和さんがキャッサバの栽培を始めたのは2年前。知人のブラジル人女性からの「故郷の味、キャッサバを作ってほしい」という一言がきっかけだったと話します。最初は栽培方法など全く分からなかったそうですが、人を喜ばせたいという気持ちから、上辺見にある知人の畑を借りて栽培を始めました。  
開始当初、何も分からない大和さんがまず向かったのは、ブラジル人住民が多い群馬県大泉町。役場で紹介された農家から栽培方法を学び、苗木を譲ってもらいました。この時に知り合った農家は、今でも分からないことがあると相談をする師匠のような存在です。指導を仰ぎながら少しずつ知見を深め、作付けの規模を拡大してきました。昨年の収穫日には母国の味を求める多くの外国人が集まり、畑の周りにはたくさん笑顔が溢れていたと言います。口コミで評判が広がり、その要望に応えるため今年も昨年の10倍(約3トンの収穫を予定しているそうです。  
「今後はさらに畑を広げ、さまざまな農作物の栽培にも挑戦したい」と夢を語る大和さん。一人でも多くの人を笑顔にするため、日々作業に励んでいます。食を通じて笑顔でつながる交流の輪は、さらに広がっていくことでしょう。



▲根が食用部分になります



▲一本一本愛情を込めて育てます



▲約800本が育つキャッサバ畑